

こんなカン違いや思い込みしてませんか……

認知症が良くなる薬はない



Q

いったん認知症になると、どんどん進んでいくばかりで、治す薬はないと思っていました。その一方で、最近では認知症の薬の「コマーシャル」などもよく見かけます。認知症の薬を飲んだらよくなるのでしょうか？

現在、認知症を完全に治せる根本治療薬はありませんが、アルツハイマー型認知症の進行を遅らせる薬があります。使われるのは、ドネペジル、リバスチグミン、ガランタミン、メマンチンの4種類です。リバスチグミンは貼り薬で、それ以外は飲み薬です。ドネペジルとメマンチンは1日1回、前者は朝、後者は晩に飲むのが普通です。ガランタミンは1日2回、朝・晩服用します。

●●●元気系と穏やか系

この4つの薬は大きく2つのグループに分かれます。ドネペジル、リバスチグミン、ガランタミンは、脳の神経細胞の神経伝達を活性化して情報の伝達をスムーズにします。一方、メマンチンは、神経細胞の興奮を抑えて神経細胞を保護するはたらきがあります。つまり、「元気系」と「穏やか系」に分けられ、その効果は左上図のような順にな

認知症に使われる4つの薬



ります。なお、それぞれの薬には比較的現れやすい副作用があるので、かかっている医師や薬剤師と相談しながら使ってください。

また、この4つの薬のうち、*ドネペジルは、2014年からアルツハイマー型認知症だけでなく、レビー小体型認知症しよたいがたにも使えるようになりました。この病気特有の「幻視げんし（他の人には見えない人や物などがはつきり繰り返して見える）」や「認知機能の変動（頭がボーッとしているときとはつきりしているときの波がある）」という症状に対して効果が認められるからです。

●●●根本治療薬ができたとしても……

冒頭で「根本治療薬はない」と言いましたが、現在、世界中の研究者がその開発にしのぎを削っています。ただし、将来、根本治療薬が開発されたとしても、この病気は数十年かかってじわじわと脳が壊れて発症するため、発症してから飲み始めたのでは既に手遅れということになります。その意味で、誰もがなりうる認知症と上手に付き合っていくこと、そして何より認知症になっても住みやすい社会をつくることのほうが大切です。